

| | |
|--|-----------|
| (氏名) 水口 剛 | (学部) 経済学部 |
| <p>1 重要事項</p> <p>平成 27 年度は、国外研修の機会を頂き、ロンドンに滞在してイギリス及びヨーロッパにおける責任投資の研究に専念した。研修受入先は、責任投資分野で 30 年以上の歴史をもつ調査機関の EIRIS Foundation である。</p> <p>研究テーマの「責任投資」とは、主として年金基金などのアセット・オーナーと、その運用受託機関（アセット・マネジメント会社等）が、環境、社会、コーポレートガバナンス（Environmental, Social and Corporate Governance: ESG）の要因を投資の分析と意思決定、株主行動などに反映させる投資行動を指す。この分野はヨーロッパを中心に、近年急速に発展しつつある。そこで、イギリス及びヨーロッパの現状を調査し、責任投資を駆動する要因が何であるのかを解明することが、今回の中心的な研究目的であった。</p> <p>この点について、①責任投資を支える制度的側面、②責任投資の実態的側面、③責任投資を必要とする社会状況、という 3 つの側面から研究することができた。制度的側面に関しては、イギリスの法制委員会による受託者責任の見直しの議論をフォローするとともに、責任投資原則事務局による「21 世紀の受託者責任」という提言の内容について検討した。また、イギリス会社法の改訂により義務づけられることとなった「戦略報告書」の事例を収集した。これは、責任投資の評価に必要となる ESG 情報の開示の制度化の事例として、重要な示唆がある。</p> <p>責任投資の実務面に関しては、EIRIS をはじめとする調査機関の評価手法を解明した。また、イギリスとオランダのアセット・オーナーに着目し、公開されている責任投資方針のコンテンツ・アナリシスを行って、責任投資の動機の研究を行った。社会状況に関しては、主として気候変動問題に関連する投資家グループの多様なイニシアティブを研究した。</p> <p>今回の研究を通して明らかになったことは、責任投資を駆動する要因の複雑さと、それを実践する主体の層の厚さである。欧米における責任投資の進展は、きわめて複合的・重層的な現象であり、多様な要因が相まって生じていることがわかった。</p> <p>実際に現地に滞在して実感したことは、地中海を挟んで中東・アフリカと接しているという地政学的要因が社会問題への危機感・切実感を生んでいること、長年にわたる実務の蓄積が層の厚さにつながっていることである。日本にいただけでは理解しにくい現地の空気感のようなものに触れられたことも大きな収穫であった。</p> <p>なお、研修期間中の研究成果の一部は、QUICK・ESG 研究所の Web で「水口教授のヨーロッパ通信」と題して発表した（全 21 回）。また、研究成果の一部を、「英国機関投資家にみる環境・社会に配慮した投資行動の研究」（高崎経済大学地域科学研究所紀要『産業研究』第 51 巻第 1 号）として投稿した。さらに、下記研究会でも発表した。</p> <p>論題：Motivation for Responsible Investment from Asset Owner's Perspective</p> <p>研究会：Finance and Management Research Seminar, Department of Financial and Management Studies, SOAS, University of London, 20th Oct. 2015.</p> <p>（注：SOAS は、School of Oriental and African Studies の意味）</p> | |

2 その他の事項

研修期間中の2015年9月27日に、日本の国民年金・厚生年金の積立金を運用する年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がPRIへの署名を発表したことから、日本でもにわかにESG投資（責任投資の別称）への関心が高まった。そこで、予定より早く2月中に帰国し、日本での議論に参加した。2月にCDPワークショップで「欧州ESG投資の最新動向」と題して講演した（於：東京証券取引所）。また、環境省が2015年度から2か年の予定で設置した「ESG投資検討会」の委員の委嘱を受け、同検討会の議論に加わることとなった。

3 次年度以降の計画・抱負

次年度も引き続き、責任投資を中心に研究を進める予定である。具体的には環境省のESG投資検討会の議論に参加するとともに、国内の運用機関の協力を得て、実際にESG投資に関わるファンドの方針策定から銘柄選定までのプロセスに関わる「参与観察」の研究を行うことを計画している。